

◆意義・魅力の発信

プログラム終了後、取り組みの中で感じた「いまばり夢学校」の魅力や、担い手である自分達の今後の展望などを多くの市民へ発信する広報ビデオを制作した。湧き上がってくる思いをコンパクトに分かりやすく伝えることの難しさを実感。何度も失敗しながら出来上がった広報ビデオを社会へ発信し、大人と子どもが対等な関係性の中で育ち合う魅力や意義を伝えたい。



先生と学生スタッフが同じテーブルに向かい、ビデオの原稿づくりにとりかかる。

- ・「大変だったこと、苦労したことを知りたい」
- ・「スタッフが感じた先生の印象を知りたい」
- ・「今でも心に残っている印象深いことを知りたい」
- ・「プログラム成功の秘訣を知りたい」

こんな声に応えるために、ビデオの構成を考える。



広報ビデオづくりのポイント

- ・プログラムをする目的を端的に伝えよう！
どんな気持ちで子ども達に参加して欲しかったのか。
- ・数字で伝えよう！
客観性を担保できる有効な手法。
- ・時系列で説明してみよう！
○月○日に××をしたよ。○時○分に××があったね。

しっかりした発声をこころがけて練習。

「早口になっている。間が大事。」

「下を向いて原稿を読んでいると伝わらない。」
など、具体的なアドバイスのやりとりをする。
そしていよいよ本番。緊張した面持ちでカメラの前に座りる。何度もNGを出しながらも、とても素敵な広報ビデオができあがった。



広報は「誰に、何を伝えるのか」「効果的なツールは何か」を整理することが大事。

出来上がった広報ビデオを通して、地域の様々な活動がもっと広がり、深まることを願う。